

平成 30 年度 第 4 回静岡市生涯学習審議会（第 5 期第 7 回） 会議録

1. 日時 平成 31 年 2 月 6 日（水） 午前 10 時から正午まで
  2. 会場 静岡庁舎本館 3 階 第三委員会室
  3. 出席者
    - 【委員】 12 名  
猿田会長、弓削副会長、田井委員、渋江委員、大橋委員、前林委員、  
中村和光委員、雨宮委員、植田委員、狩野委員、坂本委員、佐藤委員
    - 【傍聴者】 3 名
    - 【事務局】 深澤市民局次長、堀池参与兼生涯学習推進課長、坂田参事兼課長補佐、  
織部生涯学習施設整備担当課長兼施設管理係長、  
岡本主幹兼人づくり事業推進係長、降矢経理係長、  
竹澤主査、榎本主任主事、田形主任主事
  4. 欠席者 3 名（的場委員、中村昭夫委員、橋本委員）
  5. 議事
    - （1）前回の審議会での意見のまとめ
    - （2）推進計画の見直しにかかるパブリックコメントの実施結果と最終案について
  6. 報告事項
    - （1）生涯学習施設の位置付けの見直しと利用方法の一元化にかかるパブリックコメント  
の実施結果について
    - （2）平成 31 年度主要事業について
  7. 会議内容  
下記のとおり
- 

**事務局**

<議事第 1 号、第 2 号について説明>

**猿田会長**

推進計画の見直しについては、審議会の意見に基づいた修正案をご提示いただいております。さらに本日、多様なご意見をいただく中でまた多少の修正がありうるということですので、まずはご質問がございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。それでは、いろいろご意見もおありかと思っておりますので、ご感想なども含めてご発言をお願いします。

**大橋委員**

前回、訂正をお願いしたところがあるのですが、今回の資料に反映されていない部分があり

ます。これはこのままでパブリックコメントに出しているのでしょうか。例えば、資料2の体系図の中のモニタリング項目のところですが、体系図のなかでは「講座の参加者数」と書いてあるのですが、推進計画本文中では「参加人数」というふうになっています。整合性が取れていないところが見受けられます。

#### 事務局

パブリックコメント時は記載内容の整合性がとれている資料を添付しておりましたが、今回の審議会の資料では修正もれがありました。そのあたりは、最終確認の時点で、もう一度しっかりやらせていただきたいと思います。失礼いたしました。

#### 大橋委員

記載の方法については、合わせるように直した方がいいかと思います。

#### 猿田会長

ありがとうございます。最終的には全体を通じて整合性を取っていただく必要はあるかと思えます。他にはいかがでしょうか。

#### 狩野委員

資料7の7ページ、男女参画・多文化共生課が行っている「107女性人材リストの整備」の事業についてです。このような事業は静岡県の方でも行われていると思いますが、市と県のすみ分けや、市の特色性といったものはございますか。

#### 事務局

県の事業とのすみ分け等については、所管課に確認しなければわからないのですが、この推進計画掲載事業の中には県の事業は入っておらず、あくまで市で行う事業計画という形で掲載しております。

#### 猿田会長

では前林委員、お願いします

#### 前林委員

要望というか、お願いがあります。今回付け加える「ともに生きる学びの推進」についてです。ここには障がい者、外国人等に対する生涯学習の機会の提供という内容があります。私は、障がい者の方、外国人の方向けの講座ももちろんとても大事だと思いますが、バリアフリーへの対応や、言葉のケアなどしつつ、普通の講座に障がいを持った方、外国の方が気軽に入っていける、そうした講座を作っていくこと、それが本来の意味の「ともに生きる学びの推進」になるのかなと思っています。

重ねてになりますが、障がい者だけ、外国人向けとか、そうしたことももちろん必要だと思いますが、それ以外に、普通の講座にそれらの人が気軽に入っていける、そんな施策を講じていただければありがたいなと思います。

#### 猿田会長

貴重なご意見かと存じます。何か事務局からご回答いただけることがありますでしょうか。

#### 事務局

今年度、2回目の審議会の前に、障がい者の生涯学習について、全庁的に照会をかけました。結果としては、平成28年に「障害者差別解消法」が施行された影響もあってか、庁内にも手話通訳、要約筆記の配置など、障がいのある方に配慮するという意識の高まりがあるという感じは受けました。そうした部分について、障がいの担当課とも連携し、障がいのある方への配慮を今後も推進していけたらいいなと考えるものです。

ご意見いただいた内容については確かにそのとおりでと思いますので、そうしたご意見を念頭に置きつつ施策を進めていきたいと思います。

#### 前林委員

続けての発言になりますが、そう発言したのには実は訳があります。

今、学校の中にも、ご両親が外国の方、もしくはどちらかが外国の方、そんな方が増えています。なかなか日本語がおぼつかないような状況で、学校の中でも苦勞しています。けれども、そういう子どもたちも日本人の子どもたちと全く変わらない、日本に住んでいて同じ学校に来るのだから当然一人の子どもとして扱いますし、同じように教育をしています。ですから、一般の講座にも、例えば、子育て講演会というときにも、そうした方たちが気楽に来られるような状況を作っていただきたいと思います。

そうしたことが、外国人の保護者、その子どもたちが静岡で幸せに暮らす手助けとなるのかなと思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

#### 猿田会長

ありがとうございます。

先ほどの施策の関係する事業もリストを見てみますと「ともに生きる学びの推進」という項目が新たにできたことで、考え方がすっきりし、前進した部分もあるかと思います。さらに大綱の本文のニュアンスも、せっかくでございますので、ご検討いただければと思います。では続けてお願いします。

#### 中村（和）委員

この推進計画の中に若者へのメッセージが込められてきたというのは、非常にいいことで、ぜひそうしていただきたいと思います。しかし具体的な施策を見ると、高校生に対する事業

はあるのだけど、大学生に対してのものがあまりないように思いました。

静岡にはもちろん静大、県大を含めて多くの大学があるわけで、しかも少なくとも僕の知る範囲ではそれらの大学生が他県から来ている、静岡がいいということで、静岡の企業なり静岡の官公庁に勤めたりする方も結構多い。ですから、大学生も静岡市民として当然枠の中に入ってくるものであるし、そうすることによって市のプラスになると思います。

「若者との連携」ということで高校生を取り上げているのだから、大学生に対するちゃんとしたコメントが入っていてもいいのでは、と僕は思ったので、もしその辺り、何か具体的にありましたらぜひ盛り込んでもらいたいです。

#### 猿田会長

ありがとうございます。具体的には推進計画見直し案の9ページのあたりの関係になりますでしょうか。ネットワークの中に大学は位置づけられておりますが、ただ今のご意見について、事務局から何かありますか。

#### 事務局

資料の7の10ページ目の「地域・企業・大学・NPO等との連携の強化」の中には、例えば132番の「大学連携事業の実施」という事業があるように、大学との連携という部分では、事業はございます。

ただいまの中村委員のご指摘に関しては、「大学と」というよりは、「大学生と」市との結びつきという話かと思えます。「大学生と」と言いますと、大学生のボランティアの力を借りて事業を実施しているような事業は少なからずありますし、大学生を静岡市民の一人ととらえ、市民としての役割を担っていただきたいという思いは市としても持っております。それが「事業」という形を取って出てこない部分はありますが、本日ご指摘をいただきましたので、それは庁内に還元させていきたいと思えます。

#### 猿田会長

ありがとうございます。「大学」というキーワードが出ましたので、大学に籍のある先生方いかがでしょうか。

#### 田井委員

大学というキーワードで申し上げますと、大学生については、「自分たちで何かやってみたい、関わりたい」という想いはある一方、「どうしたらいいのかわからない」、「きっかけがない」という想いもあるように感じます。そういった部分での仕掛けづくり、ネットワークづくりの誘導というか、きっかけとなる事業を組み込んでいただければいいなと思っています。

それとはまた別に気になった点ですが、計画の成果指標の部分です。

「誰もが気軽に学び合える環境づくり」の成果指標のところに「生涯学習を行っている市民

の割合」の目標値を 50%としているということがあります。現状の課題を照らし合わせてみると、今回、若い人たちの参加者を増やしていきたい、固定化している利用者をもう少し流動化していきたいという部分があるので、それに関連する成果指標というのが出せたらよかったですのではないかと思います。ただ、今回は難しいところがありますので、とりあえず今回は「生涯学習を行っている市民の割合」の中身を見ていくと、若い世代の参加者が増えている、リピーターではなくて新規の参加者が増えている、というようなことがわかる指標であると良いと思いました。他のところの成果指標も同じで、難しいところはあると思うのですが、現状の課題に照らし合わせて、何か新しい指標というのを見せていけるといいかなと思いました。以上です。

#### 猿田会長

今の点、事務局からいかがでしょうか。

#### 事務局

ただ今田井委員から、例えばリピーターではない新規の参加者数という部分のご指摘いただきましたけれども、その通りだと考えております。ただ、現状を申し上げますと、見直しにおける課題に対応できる成果指標の数字については、データとして蓄積している数字とそうでない数字があります。リピーターでない新規の利用者数が実際講座にどのくらいいるのかとか、数字の蓄積から始めなければいけないケースもあるものですから、次期生涯学習推進大綱の策定も見据え、これから現状の課題を踏まえたデータの蓄積というのを来年度から行っていかなければならないと考えているところです。ご指摘の内容については、課題として検討させていただきたいと思っております。

#### 猿田会長

ただいま、大学生を巻き込む、あるいはつながるというお話もありましたけれども、そこも含めて、また別の視点でも結構ですので、渋江委員、お願いします。

#### 渋江委員

事務局の方からも説明があったように思えるのですが、大学生が地域に出て行っているような活動は意外とたくさんあると思っているのです。というのは、市内の大学、私がいる静岡大学も含め、静岡という地域に貢献していきたい、いかなければならないという流れが学内にあります。

教員個人も、ゼミの活動としても、地域の方と協力して、課題解決を行っていくケースとか、あとは大学が地域のために活動したい学生に助成金のようなものを出して、活動を支援するようなこともあります。私自身、そういったことを、もう少し「見える化」していくことが必要なのではないかと思っているところです。

#### 猿田会長

まずは現状の確認から、ということもあろうかと思えます。

最近では長期休暇が短くなったり、学生も忙しくなっています。大学の授業の中で体験的実習とか、インターンシップだとか、そういうものが組み込まれてきていますので、そこにプラスする形で、何か学生たちが地域の活動をするときの工夫や仕組み、情報提供の部分、何かあればいいのかな、と思っております。それでは植田委員、お願いします。

#### 植田委員

利用方法の一元化に関するパブリックコメントの結果ということで資料8としてまとめていただいています。

このパブリックコメントについては、結果の評価みたいなことはやらないで、このまま資料として出すのでしょうか。それとも生涯学習施設の位置付けの見直しについては、見直し案の内容に賛同というのが69件、まちづくり活動の支援という視点は良いという意見が51件、等々、これらを合わせるとかなりの数になるから、これは方向性としてはいいのではないかと、そういったパブリックコメント自体の評価をされるのでしょうか。

#### 事務局

今回の一元化に係るパブリックコメントにつきましては、「静岡市市民参画の推進に関する条例」に基づいて行っているもので、多くの市民の皆様にご意見を伺うという趣旨で行ったものです。

市が示した内容について市民の皆様がどうお考えになっているのか、というのがありますが、市民の皆様が市の案に対して、例えばここはもう少しこうの方がいいというご意見があったということ踏まえた上で、今後の見直し案の中に活かせるご意見は活かしていくという考えに基づき行っています。パブリックコメントでいただいた意見の全体評価というよりは、その個々にいただいたご意見から市民の方のご意見を把握し、活かしていきたいというものです。

内容の詳細につきましては、後ほど報告させていただきます。

#### 猿田会長

ありがとうございます。そのほかご発言のある方、お願いします。

#### 坂本委員

感想とちょっとした確認になります。感想としましては、推進計画のパブリックコメントについて、意見を反映し、細かく修正しているところを見て、非常に素晴らしいなと思いました。私も省庁にパブコメ案を出すことがあるのですがけれども、ほとんどなしのつぶてというか、反映されない。こんなに静岡市の場合はパブコメを反映して細かいところまでやるのだなと思い感心したというのが一点です。

それでちょっとした確認なのですけども、資料5、4ページの推進計画の「③ともに生きる学びの推進」というところに、赤字で「また、社会の変化に対応した」と入れていただいて、ここもすごいなと思ったのですけども、同じ項目の4行目、「SDGsも踏まえ、生涯学習の提供にあたっては、年齢や障がいの有無、経済状況、生まれ育った環境によって」といろいろと挙げられているのですけども、生物学的な性別だとか、社会学的な性別ジェンダー、これらはもう自明のことであって性別によって差がないようにするというのは当たり前なので書かれなかったのかなというふうに思ったのが確認です。

#### 事務局

ただ今のご意見を伺いまして、ご指摘のように性差の話もここに入れたほうがいいのかと思いました。事務局で検討させていただきます。

坂本委員がおっしゃった通り、男女平等という考え方は、わりと一般的な考え方となり、どちらかというと貧困などの問題が今後の課題となるのかなと考え、社会的に当然の事となりつつある性差のことについては記載しなかったということはあるのですが、そうは言っても、この場で「一般的」と考えていることも、実は一般的になっていない場合もあるのかと思いますので、文言を入れるよう検討させていただきます。ありがとうございました。

#### 猿田会長

よろしくをお願いします。

#### 佐藤委員

佐藤と申します。大変よく私たちの意見も入れて下さっていて、大変よくまとまっているなと思います。

あとひとつ、気になっているのは、ハードの部分ですけども、障がい者の方にとって、新しくなったところはともかく、現在の生涯学習センターもちょっと使いにくい部分があると思います。そんなところもあわせて、改善していかないと、いくら一生懸命に障がい者の方に講座に参加してと言っても厳しいかなと思いました。

それと資料7のことですけど、こんなにたくさん市民向けにいろんな講座とか学習会とかいろいろ計画をしているので、もっと効率の良いPRの方法を考えて、一人でも多くの市民に参加してもらい、また私たち一人ひとりも周りに呼び掛けていく必要があるのかなと思っております。

#### 猿田会長

ありがとうございました。では渋江委員、お願いします。

#### 渋江委員

一点、「生涯学習を支える基盤づくり」のところに特に関わってくると思うのですが、関連

施設の整備や、関連施設における学習環境の充実ということを踏まえ、こういった施設で仕事をしていらっしゃる職員の能力、力量を上げていくということが、施策の方向性というものを推進していくときに、必要になってくる部分があるのかなと思います。

そうした部分は、今回のものには反映はしていかないのでしょうか。

#### 事務局

今現在、大半の生涯学習施設は、指定管理を導入しておりまして、生涯学習センター、清水区の生涯学習交流館はそれぞれ別の指定管理者が入っております。

渋江委員がおっしゃったように、確かに学習相談、ネットワークの構築といったところで、現場の一人ひとりの職員が担う役割というのは非常に大きなものだと思っています。各職員の経験とか、知識が、実際問題として学習活動の広がりといったものに大きく関わってきます。当然ながら指定管理の業務の中で、そういった職員の力量、質向上というところは、盛り込んでいる部分もございます。ただ具体的に、そういった内容を大綱の計画に入れるかというのは、レベル感の違いもあるように思いますので、ちょっと検討させていただきたいと思うところでございます。

もちろん、ご指摘のように、現場の職員一人ひとりの能力というのがネットワークの構築であるとか、生涯学習の推進に向けたところで非常に大きな役割を担っていることは重々認識しているところでございます。

#### 猿田会長

施設で働いていらっしゃる職員の方の研修については、従来の社会教育という枠組みで言えば専ら県の役割というところがあり、その中で県の公民館連絡協議会の研修が何回かあるかと思えます。また、市民の方向けの研修ですね。そういったところにも職員の方を積極的に派遣、参加していただいていると思えます。それに加え、全体的にさらに政令市として何かやれることがあるのかという話になってきたときに、従来の研修ではできていないところを見つけながら、市民の人たちと一緒に考えるというか、そういう機会ができたならば、大綱の中での位置付けや収まりがいいのかなという感想です。

#### 雨宮委員

資料をいろいろ見ていて、静岡と清水の一元化を図ったときに、清水の方たちにこの説明がある程度あると、一元化するメリットが感じられる。静岡では行っていて清水の方では、されていないようなことがあるのではと思いました。

私のいる興津地区でも両親が外国の方で、日本語がたどたどしい、そういった子どもをどうするのかという課題を学校と一緒に考えています。そういう課題について、街中に出なくても参加できるように、各地区にある交流館で何らかの活動をしていただけると、多くの市民が参加しやすくなるのではないかなと思います。

これは希望なのですけれども、清水区の方は、趣味の団体さんが多いように思われますので、

こういった、自分をレベルアップするための講座などを、清水の方でもやっていただけると、一元化についても状況が違ってくるのではないかなと思います。

それから、私たちは市民活動センターでも活動していますが、そこではよく大学生の方が活動しているのを見かけます。大学生がどうしたらよいかと迷っているような状況があれば、私たちと一緒に、と声を掛けさせてもらっています。そうした状況を見ると、もっと学生も共催できるような事業を何か考えないといけないのかな、大学生が入り込めるような、そういう仕組みを作らないといけないのかなと日々思っています。

#### 猿田会長

はい、ありがとうございます。

#### 弓削副会長

先ほど窓口で対応する職員の方の資質向上という話がありました。確かにそういうところは大きいなと私も思います。何か自分で知りたい、聞きたいという時、人からもらえる情報が役立ちます。

そうすると、ここの資料7のリストに載っている担当課、全部が生涯学習に関連しているということですので、こういったアンケートのときだけ、「生涯学習」として提出するのではなく、担当課及び担当課職員の方が自分たちも生涯学習に関わっているのだという意識を共有できるような機会が、庁内の研修か何かあるものなのではないでしょうか。

局長級の会議があるというのは、わかりましたが、窓口で担当として働いている方たちにも、推進計画に挙げたからには、自分も市の生涯学習の一翼を担っているという意識を持っていただきたい。そうした思いを共有できていると、それが窓口に来た人にも伝わるものです。生涯学習施設の職員だけの話ではなく、市全体の職員意識向上はどうなのかなと、ちょっとお尋ねしてみたいです。

それから大学の話が出ましたけれども、大学の人たちで何かやってみようとしたときは、何課が窓口で担当になるのかというのがあるのでしょうか。高校生ですと、内容によってはいろいろな課の業務にわたっていくと思います。

自主的なサークル活動で地域に関わっている大学生は本当に時間もないし、学校も忙しい。私たちの活動にも大学生に来て欲しい、サポートで入って欲しいと思いますけど、現状無理と言われることが多くて、そうだとしたら大学の先生方のゼミで地域と関わる学びなどがあるので、そういう中に落とし込んでいくということが、現実的には必要だと思います。多分学校の現場では、そうやって子どもたちの学習支援みたいなところに、学生ボランティアが入っていっちゃる。

市の事業の中では、そうした大学生の動きというのが見えにくい。大学との連携講座もあると思うのですが、それではちょっとあっさりしているので、もう少し、やっていることが拾われて、実際にどの大学の先生がどんな活動で地域と関わっていて、どんな生涯学習のスタンスをお持ちなのかなというのが入ってくると、いろいろな足掛かりになると思います。

またこの先の生涯学習推進大綱を考えていくときにも、必要ではと思います。  
若い人の力はすごく大きいし、静岡で学んだ人が日本中、世界中に巣立って行くこともあるでしょう。そうした時に、こんな人づくりができる市だということであれば、これは素晴らしい市だろうと世界中に発信することになります。  
感想と合わせて少し質問もさせていただきましたが、以上です。

### 事務局

大きく分けて2つの質問をいただきました。1点目の市職員全体の生涯学習に係る意識の向上ですが、なかなかそうした機会はない、というのが現状でのお答えとなってしまいます。資料6のスケジュールの中に入っておりますが、局長級の会議の前に、今年度に関しては、11月12日に生涯学習推進本部幹事会、これは局長級よりはもう少し現場に近い、課長級の会議を行いました。今まで開催がなく、今年度は推進計画の変更があったため開催したのですが、会議で話をさせていただきますと、こういうのは大事だよと反応してくださる会議参加者もいました。今後忙しい業務の中、こういった全庁的な会議を組み込んでいくのは難しい部分もありますが、何らかの形で「生涯学習」という概念を、市全体でもっと共有し、職員に印象付けていくようなところが必要なのかなと感じております。

それから、資料7に盛り込まれている事業の中で、「こ・こ・に講座」というものがあります。今年度は18講座を市民局、保健福祉長寿局、子ども未来局、環境局、経済局などのさまざまな課が市民の皆さんに提供し、年間約400人以上の受講生を受け入れています。この講座の担当職員については、市民の皆さんに直接接しますから、生涯学習推進課が音頭を取って、毎年2回シチズンシップ部会という連絡会議を開催しています。この講座は「構想力」「行動力」、そして「人間力」を兼ね備えた地域人材を養成しましょうということで、もちろん職員もこういう思いで講座を企画運営しております。シチズンシップ部会を通して、職員の研修、意識共有を図っています。

また、現在準備中ですが、3月にこういった地域人材、修了生及び職員、そしてこ・こ・にスタッフが一堂に会する「こ・こ・に・わ交流会」を開催します。職員の資質向上というよりは、もう少し広い意味で、行政職員も修了生の市民も年代問わず過去の修了生も交えて、交流し、生涯学習というのが学習だけではなく、地域に出て活かしている人たちの声も聞きもっと大きい意味で向上していくことを目的とした交流会です。この交流会を通じて市民の皆さんに提供する講座のレベルアップを図れたらなと思っております。

また、大学生を取り込んだ市の講座というところですが、いろいろな課がそれぞれ若者を取り入れた事業を行っておりますが、市企画課が窓口となり5市2町が地域課題解決を大学と連携して取り組む事業があります。大学生の生涯学習というよりは大学機関と大学生を交えて市の課題を解決しましょうという、座学ではなくて、フィールドに出て実践的に学生が学ぶものもあります。

**猿田会長**

ありがとうございます。その他、よろしいでしょうか。

ご審議ありがとうございました。いろいろと多様な視点からご意見を伺いました。

11月からの修正作業につきましては、概ねご賛同いただいているのかなと思います。その上で、新たな視点も示されておりますので、また今後の課題としていただければと思います。大変な作業に取り組んでいただきました。改めてお礼申し上げます。

それでは、次の報告事項に移らせていただきます。報告事項の第1号、「生涯学習施設の位置付けの見直しと利用方法の一元化にかかるパブリックコメントの実施結果について」、事務局より報告願います。

**事務局**

〈報告事項第1号について説明〉

**猿田会長**

今のご説明について、何かご質問ございますでしょうか。

**佐藤委員**

質問ですが、このパブリックコメントの意見提出者372人という数字を、市は多いと見ているのでしょうか、少ないと見ているのでしょうか。というのは、私も何人かの方にいろいろと静岡の生涯学習センターの管理、利用の話をして、皆さん関心があるのです。

私たちがグループでアイセルや、「き・て・こ」、それから南部生涯学習センターを借りたりしております。皆さん大変関心があるはずなのですが、この数はどうなのかと私は思いました。担当課としてはどのようにとらえていらっしゃいますか。

**事務局**

パブリックコメントに関しては、意見の多い、少ないという数よりは、どちらかという意見の内容に注目しております。

市として、利用者の方に対する説明会を、昨年8月から11月にかけて開催させていただきました。それは実際に施設をご利用いただいている方を対象としたものでした。今回のこのパブリックコメントでは普段施設を利用されていない、あまり利用したことがないという方からの意見もいただいておりますので、意見の内容としては、今までにない視点を感じたところであります。

数がどうだったかというお尋ねについては、パブリックコメントを実施したとき、私たちが広く募集したつもりでありますけれども、372人からのご意見、これが数的に多いか少ないかと問われれば、少なくはないとは思いますが、決して潤沢な意見とまでは言えないかなとは思っております。ただ、先ほども申しましたように、普段施設を利用したことがないという方からのご意見をいただいておりますので、いただいたご意見の内容を十分吟味

した上で、今後一層利用しやすい方法を考えていくときの参考にさせていただきたいと思っております。

また、提出いただいたご意見につきましては、取りまとめたものを資料8に付けさせていただいており、同じものをホームページを通じて市民の皆様にも公表させていただいているところでございます。

#### 猿田会長

ありがとうございます。ほかにご質問はありますでしょうか。

それでは次の報告に移ります。「平成31年度主要事業について」をお願いします。

#### 事務局

〈報告事項第1号について説明〉

#### 猿田会長

ありがとうございました。ただ今の報告について、ご質問がございましたらお願いします。

#### 弓削副会長

最初にお話いただいた、「静岡シチズンカレッジ こ・こ・に」の中で「地域コース」として（新）と書いてあって、生涯学習センター人材養成講座（地域編）というのが、掲げられています。これは具体的にどんなことをされるイメージなのか、また、地域編というのがあるならば何か別のコースも実施する予定なのか、もし分かればいいのですが、教えていただけたら嬉しいです。

#### 事務局

今回入りました「地域コース」、（新）のマークがついた「生涯学習センター人材養成講座」ですけれども、生涯学習施設、生涯学習を推進する市民に一番近い拠点の場所、「現場」でその施設を運営している指定管理者が長年培ってきた地域との連携を活かし、その地域課題に取り組む講座です。指定管理者が、例えば環境問題とか、このセンターの地域にはこういう地域課題があるから、こういう人材を養成しましょうということを企画・検討する。その際には「こ・こ・に講座」の一つですから、やはり「構想力」、「行動力」、「人間力」がある人材を養成するという理念のもと、企画実施してもらおう想定しております。

まずは来年度1講座、市民に一番近い現場の施設で実施していくものとなります。

#### 弓削副会長

そうすると例えば、葵生涯学習センターでやりますといった場合には、センターの方が講師になるか、それか、センターの方が見つけてきた方が講師になって、葵生涯学習センターがある地域で課題だと思ふことを講座にして、地域の方が参加する講座をやるということ

すか。それだと今までとあまり変わらない印象になるのですが、そうではないですか。

#### 事務局

講師をお呼びして市民の方々に講義を提供するというよりは、地域課題に取り組む人材の養成講座の企画運営です。

例えば、障がい児を地域やセンターでサポートしていきたいが、人材が不足している。そういう地域課題を解決するために5回講座で、基礎的なところから知識を習得し、人を育てていく。地域で、地域課題に取り組む人材を養成する講座を今、想定しています。

#### 猿田会長

ありがとうございました。他にはよろしいでしょうか。

#### 坂本委員

今の質問に少し関連してです。先ほど、生涯学習センターの方は、生涯学習とか人材育成に取り組んでいて、清水はどちらかというと趣味の世界みたいなところがあって、残念という話があったかと思うのですが、今この提案されている新しい「生涯学習センター人材養成講座」というのは、これはあくまでも静岡の生涯学習センターで行うもので、清水の生涯学習交流館の方での計画は今のところないということでしょうか。

#### 事務局

静岡市の生涯学習センターは葵区、駿河区に11施設あり、それらでは指定管理者が仕様書に基づいて業務を実施しております。センター側は来年度が新しい5年間のスタートになるので、今回このような事業を仕様書に盛り込み、来年度この1講座をスタートさせます。清水区の施設については、まだわかりませんが、指定管理の更新時、新たに仕様書を見直す際にそうした事業を盛り込むかどうかの検討をすることになります。その際、清水区の交流館施設の方は地域密着で、もしかしたらまちづくりの地区組織がしっかりしていて、そちらに任せたほうが良いというふうになれば、そこはやり方が変わってくる場合もあるかと思えます。

#### 坂本委員

私は清水に住んでいて、清水で働いているのですが、ボランティアなどのいろいろな活動は番町市民活動センターやる・く・るなど、静岡の方に来てやっています。

清水に住んでいる人間からすると、清水の地域でも、人材育成、趣味だけではない生涯学習というような切り口のものを、指定管理者任せだけ、ということはないと思いますが、行政としてさらに力を入れて行っていただきたいなと思います。

#### 事務局

もう一点、付け加えなのですが、この一覧表の中でオレンジ色の総合課程「地域リーダー養成コース」、「地域デザインカレッジ」の基礎編と調査・実践編は、生涯学習推進課が毎年実施しております。来年度は清水区で地域人材を養成するコースを開催していく予定ですので、おそらく清水の地域の方の参加を多くいただけるのではないかなと思っています。

#### 坂本委員

地域デザインカレッジの修了生は両河内の方で活動されている方もいらっしゃいます。いろいろなご経験がおありですので、ぜひ取り上げていただければいいと思います。

#### 猿田会長

ありがとうございます。まだご質問あるかもしれませんが、質問票などお使いいただき、意見をお寄せいただければと思います。

それでは以上を持ちまして、本日の議事は終了させていただきますが、何度かお話ありましたとおり、今期の審議会は、今回が最後となりますので、2年間出席いただいた中でお感じになったことなど、順番にお願いできればと思います。では雨宮委員からお願いします。

#### 雨宮委員

この審議会の中で一番生涯学習交流館を使う機会が多いのは自分かなと思って、ここに参加させていただいていました。

静岡と清水のことが一元化されるのを楽しみにしておりましたので、2月に議案が上程されないことは、残念です。先ほども言ったように単なる趣味ではなく、生涯学習として多くの方が学べるように、そちらの方で目をかけていただけたらなというのが一つあります。それからもう一つ、学びについての門戸はずいぶん開いてきていると思います。でも今まで縁のなかった方たちは、その扉が開いても来ない方が多い。そういった方を積極的に拾い上げていかないと、本当に困っている、本当にそこに参加すべき人とはつながらないような気がします。推進計画の見直しの中に「貧困者」とか「障がい者」という文言は入りましたが、その方たちは、機会があるだけでは参加できないので、その後のフォローもお願いしたいと思います。

#### 植田委員

今日、2月の条例案上程を見送るという話を聞いて、せっかくやってきたのに残念に思います。静岡がよく言われるように「やらまいか」ではなく「やめまいか」になってしまうのではないかと非常に心配でもあります。せっかく旧静岡と旧清水をなんとか一体にして、静岡市としてもっといろいろやっていけるのではないかなと思っていたところが、こういった結果となって残念です。これを機に、これからもいろいろなところに参加して意見を出したり、協力していきたいなと思っていますので、よろしくをお願いします。

#### 狩野委員

いろいろ議論してまいりましたが、大切なのは、利用者が利用しやすい形態で行うということだと思います。その中には「応分の負担」ということも入っており、大事なことだと思いますので、根底にあるその考え方は崩さないでいただきたいと考えています。

今後もまたユニークなコース、講座などお考えになってくださることと思いますけれども、指定管理者に仕様書を渡して「このようにお願いします」ということだけでなく、仕様書の下で行われる内容についても静岡市が目を通して、市の目線で確認し、細かく見ていただいでくれたらなというふうに思っております。

#### 坂本委員

坂本です。今までは自分一人でコツコツ考えてきたのですが、こういった場で市の生涯学習というものを考えるのは初めてでした。非常に目が覚めたというか、いろいろなことを教えていただいて、とても良い機会だったと思います。本当に微力で何もできませんでしたが、こういった機会をいただけたことに深く感謝しています。ありがとうございました。

#### 佐藤委員

佐藤です。率直な感想として、ここでのご意見を伺っている中でも、まだまだ静岡、清水が一体となっていないと感じてしまいました。やはりそういう垣根は早く取り払っていかないと、静岡市が目指す「輝く静岡」、私たちが目指すものにたどり着かないのではないかと思います。静岡だ、清水だ、ではなく「静岡」ということでやっていかないといけないというのが率直な感想です。

それから私が委員として参加したのは、アイセルとか、「き・て・こ」とか、いろいろ施設を利用する中で、キャンセルをしてそのまま空いている部屋が随分ある。その部屋の活用の方策について委員として意見を出したかったということがありました。施設の稼働率の問題も出てきましたが、そうであれば、もう少しここを工夫すればいいのではないかというような意見や案を持って臨んでいましたので、審議会の中でお話する機会がなかったのは残念です。やはり地域の生涯学習の場である生涯学習センター、交流館は、もっともっと市民に親しまれて、いつ行っても利用できる、それから空き部屋がないというような状況を作っていかなければいけないのではないかなと思っております。ちょっと辛口の感想ですいません。

本当に2年間いろいろ勉強させていただいてありがとうございました。

#### 中村（和）委員

私は、地域で文化活動をしていますので、こういう生涯学習の全体的な計画を考える立場の方々とお話してきたのは非常にありがたいと思っています。

私はいつも思うのですが、どんな計画を立てようと、どんな講座を開こうと、最終的に、そ

ここでやる気のあるリーダーがいない限り成功はしないということです。結局はどんな分野でもそうですけど、人間力なのではないかと思います。計画を立てたからいいわけではなく、結局最後は人材育成の問題になる。人材育成はとても難しいことです。誰が講師になってリーダーになる人を指導するのかと考えたとき、やはりそう簡単な問題ではない。地域の活動を見ていて上手くいっているところの人たちの話を聞いて、それを別の地域のリーダーに話をする機会というのを作っていただければ全体の底上げがされていくのではないかなと思います。

リーダーを育成するというのが、活動を上手くやっていくための方法だと思うので、そこはきちんと理解して取り組んでいただきたいと思います。

#### **前林委員**

学校という立場を代表して、ここに座らせていただいております。学校も実は合併に際し、同じ「市立の学校」という意識を醸成するのにもとても時間がかかりました。今でも少し違いがあることは事実です。例えば給食のシステムは現在も統一されていません。

一つの制度になるのには、とても時間がかかることだなと思います。ただ、それを実現するのは人との交流だったと思います。学校の現場では、旧静岡市と旧清水市の教員がお互いに行き来しあうことによって、理解が進んでいったとも思います。ですから今回のこの問題についても互いの生涯学習施設を利用し合うこと、そこがポイントになるのではないかなと思っています。魅力的な講座を開き、そこに旧市の範囲を超えて、清水区も駿河区も葵区もいろんな力が集まって、人との交流があって、そこで初めて、あ、こういうものもいいなと、そこから生涯学習センター、生涯学習交流館の一元化が進んでいくのではないかなと思います。ですから一番大事なのは施設を統一するかどうかではなくて、それを使う人間の意識がどう変わるか、そこなのではないかなと思います。

ぜひ、互いの交流も進めていくために、魅力的な講座を開いていただけるとありがたいと思います。

#### **大橋委員**

大橋です。2年委員を務めさせていただきました。私はこういうところに出てきたことがなかったのですが、自分なりに考え、意見を述べさせていただきました。

私は審議会を通じいろいろな事業を知り、今の日本は幸せだなと思っています。「こういう勉強ができるから来てください」といろいろな行政が提案しているわけですから。でも「学ぶ」というのはやはり自分の意志がないとできない。いくら料理をたくさん出したとしても、満腹では食べられないだろうし、嫌いなものは食べない。ですから、魅力あるものを作っていかなければならないのは確かなのですが、市民一人ひとりいろいろな性格があり、いろいろな考え方があることも尊重しなければならないのかと思います。

市としては、自分たちのまちづくりを担う市民を育てようという考えのもと「静岡シチズンカレッジ こ・こ・に」というものを実施していると思います。それはそれで良いことだと

思いますが、人にはいろいろあって、趣味の範囲内で自分は学びたいとか、いろいろな考えの人がいます。ですから、そうした考えも尊重していくべきではないかなと私は思っています。

そういう意味で「こんな勉強もできるよ」といろいろな提案を行政がしているというのは、本当に幸せだなというのを感じました。

この分野の話は初めてではありましたが、皆さんのいろいろな考えを伺うことができ、非常に勉強になり、ありがたく思いました。本当に2年間ありがとうございました。

#### 渋谷委員

渋谷です。2年間どうもありがとうございました。

今期、時代の流れと時間の経過に伴う生涯学習施設の利用方法の見直しの議題、また生涯学習推進計画の中間見直し、いずれも大きな課題でしたが、そういった課題を考える上で基となる資料、質的、量的な根拠を常に事務局が用意していただいていたのは非常にありがたかったです。

それに加え、この場で様々な立場の皆さんと話すことによって、重要な課題というものが共有できたのではないかなと思います。なかなか難しい2年間でありましたが、ありがとうございました。

#### 田井委員

田井です。2年間ありがとうございました。感想が2点あります。

1つ目は「ともに生きる学びの推進」という新規項目が追加されたことで、貧困状態にある方、外国にルーツを持つ方、障がいがある方に対する学習支援、また先ほど前林委員の方からお話のあったインクルーシブ、一緒に学んでいくという機運を計画で先取りできたことについてです。そうした内容が計画に盛り込まれたことで、実現に一步近づいたと期待しています。

大学の授業の中でも、体験活動や野外キャンプなどを行っており、そうした中で学生たちが、障がいのある子どもたち、発達障害が疑われる人と接することがあります。

学生たちは、社会教育、生涯学習というフィールドの中、どういうふうにそうした子どもたちと接するべきか、問題意識をため込んできています。そうしたことも合わせて、掘り上げていただけるような計画、事業が展開していかれるといいと思っています。

また、学生だけでなく私たちも、障がいがある方、貧困状態の方などへの学習支援ということについて、目配りをしていきたいと思っています。それが1つです。

もう1つは今後のことです。これからは事業が上手くいった結果どうなったのか、今後問題点があったらどう改善していけばいいのかというところの評価がとても難しくなっていくと思います。今、各自治体でそうした指標であったり、成果指標であったり、今回の計画で言う「モニタリング項目」というものがいろいろ開発されているところだと思うので、私自身、何か良い指標がないか探していきたいと思っています。

#### 弓削副会長

弓削です。参加できない回があり、この席に座るのも申し訳なく思うことがございましたが、自分にとっては、考える場をいただいたと思っています。私は現場で子どもと接する機会もあるので、学んだことをそうした場で少しでも活かしていけたらと考えています。

考えながら、行動しながら、その先を作っていくというのが生涯学習を实践する姿だと思います。自身、そういった積み重ねを行っていきたいですし、また、自覚がなくとも、そういったことをされている方はたくさんいらっしゃると思います。

実はみんなが生涯学習というフィールドには当てはまっていて、自分も気持ち良く、社会も気持ち良く、ということが出来る静岡市になっていけるよう、自身でもできるところを探していきたいなと思います。2年間どうもありがとうございました。

#### 猿田会長

皆様、ありがとうございました。私は2007年くらいから、この審議会が協議会と言われていたときから経験を積ませていただきました。静岡市の生涯学習が今後ますます発展していけばいいなと思っています。生涯学習推進課の皆さんは非常にフットワークも軽く、風通しもよく、適任の方がお勤めになっているのがよく分かりましたし、その中で生涯学習の全庁的な企画調整を行う主管課として、この大綱作成は、面目躍如というところだと思います。これほどしっかりして、消化ができたというのは本当に先ほども申しましたように準備をしてくださった皆さんの努力の賜物かなと思っています。

生涯学習は本来、風通し良く行うものだと思います。ただ、続ける中でだんだん固定化し、柔軟性を失うようなところもあります。ですから、担当課で何か企画を主催することきは、人材の調達であったり、学習者の募集であったり、いろんな部分で柔軟なモデルを示していただければと思います。それが他の現場に波及し、良い影響を及ぼすと思っています。またいろいろなところでお世話になるかと思いますが、よろしくお願ひします。

ありがとうございました。

それでは事務局の方にお返しします。